

静岡県協組
静岡県砕石業協同組合
組合員合計販売量
1割弱減り143万³m

調べによると、2024年度(賛助会員23工場合計の仕入含む)

品を含む砕石(バーシン材)販売量は前年度比9・6%減の143万9千³mとなり5年連続減少した。用途別にみると道路用は減少しコンクリート用は微減にとどまった。再生材を含めると9・6%減の172万7千³mである。

バーシン材を地区別にみると下田・西伊豆が増え浜松が小幅の減少、富士、静岡、沼津は二ケタ減である。多い順に富士46万7千³m(12・5%減)、浜松46万6千³m(23万9千³m(0・9%減)、静岡31万³m(18・0%減)、沼津14万3千³m(11・9%減)、下田・西伊豆4万9千³m(28・1%増)、伊東5千³m(4・5%減)、島田ゼロである。

用途別販売実績は道路用が8・2%減の63万7千³m。6号砕石18万³m(11・3%減)、粒度調整砕石18万2千³m(13・9%増)、クラッシュラング万1千³m(9・0%減)など。

コンクリート用砕石は減、砕砂は19万3千³m(4・9%減)。このほか鉄道道床用砕石4千³m(33・1%減)、割栗7万5千³m(4・4%減)、その他の砕石28万9千³m(21・2%減)。

再生材は9・5%減の28万8千³mで、このうち再生基礎裏込材10万8千³m(5・2%減)、再生盛土材13万1千³m(11・8%減)、再生下層路盤材4万9千³m(12・2%減)である。